

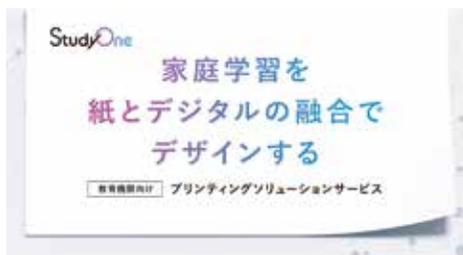
コロナ禍によってオンライン学習が普及した。しかし「紙に書く」というアナログな学習法は、まだまだ有効で記憶が定着しやすいといわれている。そこに注目した株式会社スタディラボ(東京・文京区)は、セイコーエプソン株式会社(長野・諏訪市)と共同で「Study One」という新サービスを開発した。生徒は塾から送られてきて自動でプリントアウトされる課題を解答。再び先生に送り返し、指導を受けることができる。6月から実証を開始するこの新サービスについて、代表取締役の地福武史氏に詳しいことを聞いた。

紙とプリンターを使って家庭学習をアップデートする「Study One」

遠隔でも紙をベースに指導できる

まず、Study Oneの概要をお聞かせください。

Study Oneは、(株)スタディラボと、セイコーエプソン(株)の協業によって生まれた新サービスで、デジタルと紙の融合、つまり「家と塾を紙でつなげる」をコンセプトとしています。家庭学習の大切さに目を向け、生徒の自宅に設置したプリンターを使って指導するシステムです。先生が様々な課題を送信すると自動でプリントアウトされます。生徒はそれを解いて、終わったらスキャンして塾に送り返し、先生の指導を受けます。



「デジタルと紙のいいところ」というわけですね。

はい。各生徒に送信する問題にはQRコードが自動で付与されているので、誰に送った、どんな問題であるかは、履歴として蓄積されます。弊社が無料で提供するLMS(学習管理システム)を使えば、先生は生徒の学習履

歴や得点などを、紙でありながらもデジタル管理することができるとです。

紙をデジタルで管理できるのはいいですね。ただ、用紙代やインク代が気になるところですね。

Study Oneのもう1つの大きな特徴が、月間500枚まではカラーでもモノクロでも印刷し放題であることです。さらに必要なインクは自動で家庭に届けられる、生徒も先生も気兼ねなく紙を使うことが可能です。

生徒のことも、先生のことも、塾のことも

なぜStudy Oneをスタートしようと思われたのでしょうか。

大手塾で私が長年指導をして感じたのは、記憶を定着させるには五感をフルに使うことが効果的であるということです。オンライン学習が普及するなか、特に「紙に書く」という行為は、まだまだ学習するうえでは有効なはず。そうした思いから開発に着手しました。

また、家庭での学習は塾と違ってはかどりにくいものですが、Study Oneによって家での学びもしっかりサポートすれば、学習量を増やすことができます。言ってみれば、子供部屋をDX化するイメージです。

指導する、塾への配慮などもあったのでしょうか。

そうですね。まだまだ紙は重要であるといいながら、生徒にしてみれば提出し忘れたり、紛失したりする可能性があるほか、先生にとってみれば

紙を出力して配り、回収しなくてはならないなど、無駄や負担があるのも事実。そうした問題をStudy Oneで解消し、労働生産性を高めたという想いもありました。例えば予約印刷機能も搭載

載していますので、わざわざ生徒が帰宅したタイミングを見計らってデータを送信する、といった無駄な働き方をしなくて済みます。

生徒のことも、先生のことも考えたシステムなのですね。

また、これまで家庭学習に関与しづらかったということとは、ほぼ塾にいる時間しかマネタイズできなかったということです。Study Oneを使って家庭学習を管理できるようにすれば、これまで売上にならなかった時間を売上にできる。生徒、先生だけでなく、塾の経済合理性を高めたいという考えもありました。「家では勉強しないのに、塾に行かせる必要があるのか?」と迷っている層

に、Study Oneでアプローチできたらいいですね。塾ごとに自由自在にアレンジ可能

具体的には、どのような指導が考えられますか。

現在、教育開発出版の「eトレ」と連携し、25万ページ120万題から抜粋した問題・解説プリントを利用することが可能。漢字や計算、英語など、様々な問題を送ることができます。今後はジョ

インいただける教材会社の問題をどんどん利用できるようにするつもりで、Study Oneがハブになればと考えています。

一方、先生自作のプリントも送信できるため、定期テスト対策や過去問指導、記述対策など、幅広い指導が可能です。

私たちはStudy Oneのブランドを推したいわけではありませんで、各塾オリジナルのコースを設置するなど、使いやすいようにアレンジしていただければと思います。

私たちがStudy Oneのブランドを推したいわけではありませんで、各塾オリジナルのコースを設置するなど、使いやすいようにアレンジしていただければと思います。

今後の展開スケジュールをお聞かせください。

Study Oneはスタディラボが運営する塾で1〜2年のテストを行い、その使い勝手やオペレーション性はすでに検証済みです。6月よりいよいよ他社様にて実証する運びとなりました。1社1社様を丁寧にフォローすることで、このサービスを大切に育てていきたいと考えています。ご興味のある方はぜひお気軽にお問い合わせください。



株式会社スタディラボ 代表取締役 地福武史氏

お問い合わせ先

株式会社スタディラボ
スタディワン事務局

Mail : study_one@studylab.co.jp
Tel : 03-6902-1151